

# 新・幸福駅に シンボルツリー

ハート形の葉があるシンボルツリーのカツラを植える作業員



【帯広】再整備が行われている帯広市の旧国鉄広尾線幸福駅で26日、同駅のシンボルツリーとするカツラの木が植えられた。11月上旬の再オープンに向けて、駅舎の改築以外にも、親水設備の「愛の泉」や生け垣、インターロッキングなどの周辺設備の整備も順次進められる。

カツラは、ハート形の葉をつけることから「恋人の聖地」である同駅の特徴とする方針。駅舎西側の「幸福ふれあい広場」に植えられ、植樹場所に隣接して屋外で結婚式が挙げられる「青空チャペル」も整備される。

この日は午後1時から、

真鍋庭園緑化（帯広）が作

業に当たり、傾きを調整しながら幹周り50センチ、高さ7メートルのカツラを植えた。同社の鈴木隆統括部長（63）によると、秋には落ち葉からチョコレートのような香りがするそうで「成長すると直径2メートル、高さ30メートルほどにもなり、300年近く育ち続けると思う。駅のシンボルになっていくのが楽しみ」と話していた。

（十勝毎日新聞）